

空知信用金庫・第150回地域企業景気動向調査

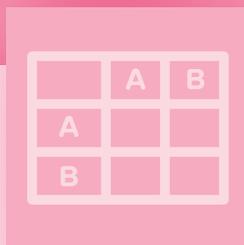
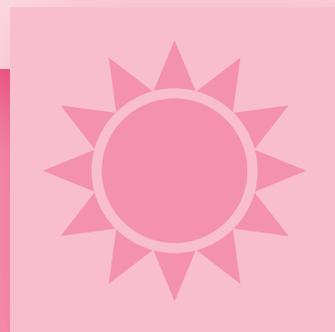
景況レポート

2024.1

このレポートは、空知信用金庫が岩見沢・美唄・三笠・栗山・由仁・長沼・南幌・江別に所在の地元企業のご協力により、令和5年10月～12月の景気の現状と令和6年1月～3月の見通しを調査したものです。

令和6年1月末日

空知信用金庫・地域支援部
岩見沢市3条西6丁目2番地1
電話(0126)22-1171



第150回 地域企業景気動向調査要項

1. 調査地域

若見沢市・美唄市・三笠市・江別市・栗山町・長沼町・南幌町・由仁町

2. 調査対象期間

令和5年10月～令和5年12月期（実績） 令和6年1月～令和6年3月期（予想）
令和5年12月1日～12月7日に実施

3. 調査の方法

面接・聞き取りによる調査

標本（調査対象企業）の抽出法としては、標本の業種・規模等の基本属性が、母集団（当金庫融資取引先）の属性に見合う基準にもとづく、有意抽出法によるもの。

4. 業況判断指数

D・I値による判断

D・Iとは？ Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略
企業の業況判断等を指数化したものであり、景気動向の方向性を示したものの。
D・Iが高ければ好景気、低ければ不景気であると判断できます。

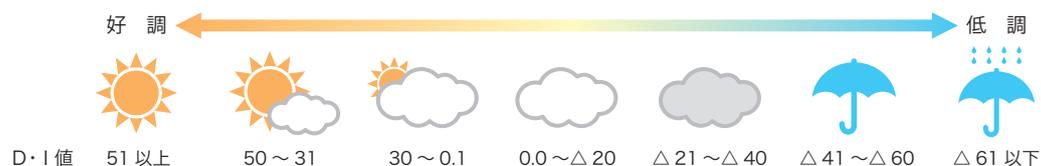
D・I値 = 「増加・やや増加・上昇の割合」 - 「減少・やや減少・下降の割合」

5. 調査対象企業数・有効回答数の内訳

区分	調査対象企業	有効回答数	有効回答率(%)
製造業	24	23	96
卸売業	14	14	100
小売業	57	54	95
サービス業	32	30	94
建設業	43	43	100
不動産業	7	7	100
運輸業	17	17	100
農業	28	26	93
計	222	214	96

6. 天気図の見方

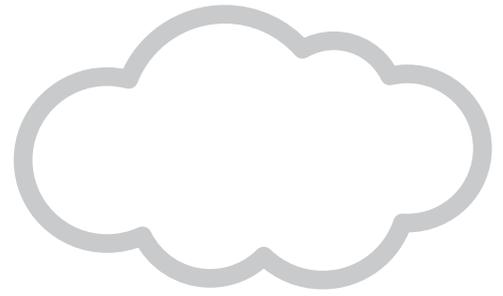
景気指標を総合的に判断して作成



7. 特別調査

「2024年（令和6年）の経営見通し」

総 合



概 況

景況の改善ペース鈍化 物価高・人材不足等を反映

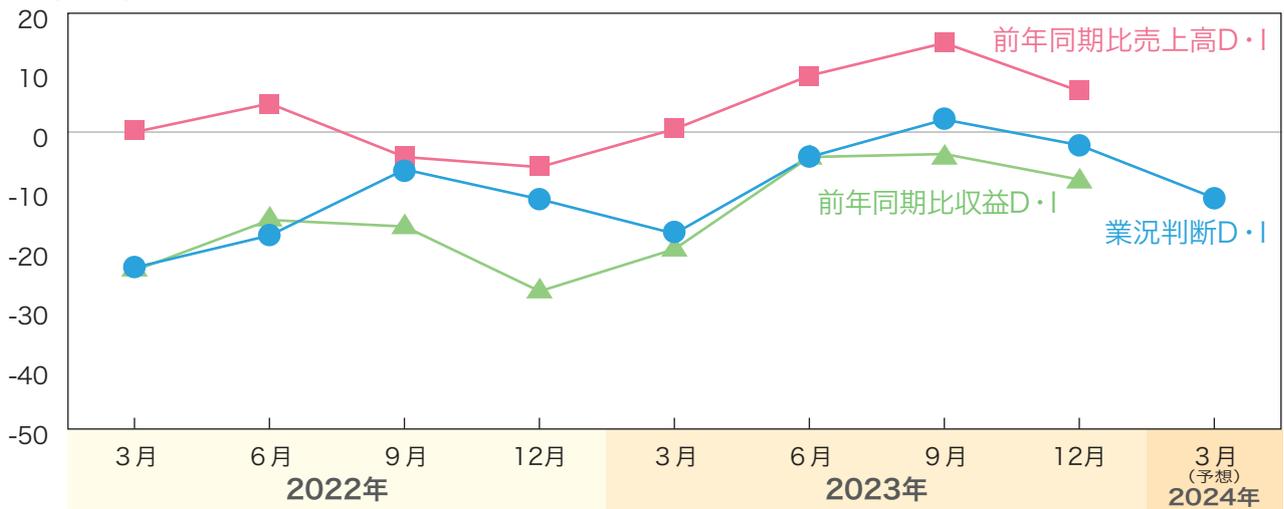
今期の業況判断指数(D・I値)は、△2.2と前期(7月～9月)より4.3ポイント下降し、2期振りにマイナス圏内へ転じました。業種別に見ますとサービス業、製造業の順に改善、他の6業種で悪化となりました。売上高D・I値は6.9と前期比8.1ポイント悪化となり、不動産業で上昇、製造業・卸売業で横這い、それ以外の業種は下降となっております。収益D・I値は△8.0と前期比4.3ポイント下降し、改善は製造業のみで、他の業種は横這いまたは下降しております。

	前年同期	前 期	今 期	見通し
業況D・I	△11.3	2.1	△2.2	△11.1
売上高D・I	△5.9	15.0	6.9	—
収益D・I	△26.8	△3.7	△8.0	—

来期の見通しについて

来期の予想業況判断指数(D・I値)は△11.1と今期実績比8.9ポイントの下落が見込まれます。業種別では、不動産業・運輸業は横這いを見込み、それ以外の6業種は悪化を予測しております。主要指標はやや悪化傾向となり、物価高・人材不足等の負の影響も加わり、先行きの不安感を反映したと思われまます。

主要指標の推移



前期比D・Iの推移

○販売価格D・I

	前年同期	前 期	今 期	見通し
製 造	43.5	13.0	26.1	21.8
卸 売	64.3	35.7	64.3	14.3
小 売	39.6	46.2	31.4	20.3
サービス	20.7	24.1	26.7	30.0
建 設	25.6	51.2	39.5	16.3
不動産	—	14.3	14.3	—
運 輸	35.3	41.2	52.9	35.3
農 業	15.4	33.3	42.3	11.6

※サービス業は料金価格、建設業は請負価格、運輸業は料金単価、農業は販売単価。

○仕入価格D・I

	前年同期	前 期	今 期	見通し
製 造	69.6	39.2	69.6	52.2
卸 売	71.4	28.6	64.3	7.1
小 売	56.6	57.4	48.2	29.6
サービス	65.5	55.2	56.7	46.7
建 設	69.8	69.8	58.2	37.2
不動産	—	14.3	14.3	—
運 輸	70.6	88.2	58.8	58.8
農 業	73.1	66.7	61.5	30.8

※製造業は原材料価格、サービス業・建設業は材料価格、運輸業は燃料価格、農業は生産資材等価格。

○人手過不足D・I

	前年同期	前 期	今 期	見通し
製 造	△30.4	△26.1	△39.1	△30.4
卸 売	△35.7	△35.7	△28.6	△28.6
小 売	△20.8	△20.4	△16.6	△16.6
サービス	△38.0	△44.8	△36.7	△33.3
建 設	△46.5	△58.1	△46.5	△32.5
不動産	△14.3	△14.3	△14.3	△14.3
運 輸	△52.9	△64.7	△58.8	△52.9
農 業	-	-	-	-

○残業時間D・I

	前年同期	前 期	今 期	見通し
製 造	8.7	8.7	0.0	△8.7
卸 売	-	△7.1	△7.1	△7.1
小 売	△1.8	△1.9	0.0	△1.9
サービス	20.7	17.2	3.3	△6.6
建 設	2.3	4.7	△7.0	△2.3
不動産	-	-	-	-
運 輸	△5.9	11.8	5.9	5.9
農 業	-	-	-	-

○借入金の動き・難易度

(%)

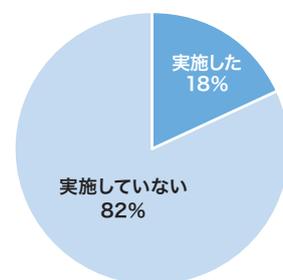
	借入金の実施	借入金の予定	民間金融機関からの借入難易度			
	し た	あ る	容 易	変わらない	難 しい	該 当 な し
製 造	4.3	8.7	4.3	73.9	8.7	13.1
卸 売	35.7	28.6	21.4	78.6	-	-
小 売	29.6	9.3	7.4	66.7	7.4	18.5
サービス	30.0	16.7	13.3	63.3	10.0	13.4
建 設	32.6	16.3	18.6	65.1	7.0	9.3
不動産	14.3	14.3	-	85.7	-	14.3
運 輸	17.6	11.8	11.8	64.7	11.8	11.7

○設備投資の動き

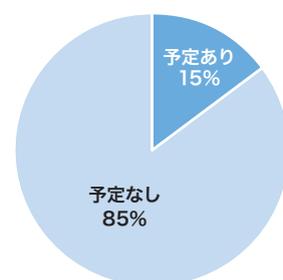
(%)

	前年同期	前 期	今 期	実施予定
製 造	13.0	8.7	13.0	8.7
卸 売	35.7	21.4	14.3	7.1
小 売	17.0	13.0	18.5	9.3
サービス	13.8	20.7	16.7	16.7
建 設	25.6	23.3	25.6	25.6
不動産	-	-	-	-
運 輸	-	17.6	11.8	17.6
農 業	15.4	11.1	7.7	7.7

2023年10月~12月期
設 備 投 資

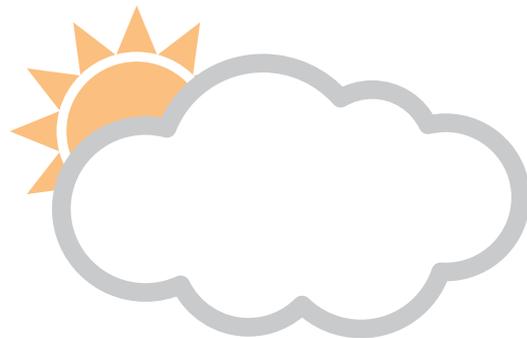


今後3ヶ月以内
設 備 投 資 計 画





製造業



概況

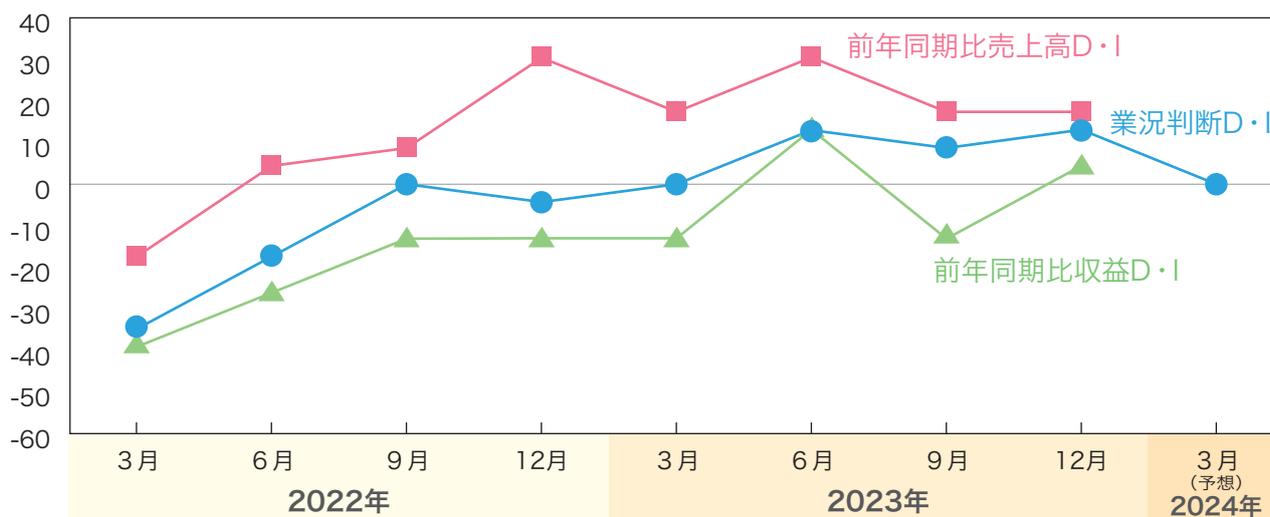
今期の業況判断指数（D・I値）は、13.1と前期（7月～9月）に比べ4.4ポイント上昇し、安定した業況でした。金属製品製造業、出版・印刷製造業が改善しており、全体の押し上げ要因となりました。売上D・I値は17.4ポイントとなり、前期と同程度の水準を維持しました。収益D・I値は4.4ポイントと前期から17.5ポイント上昇し、2期振りにプラス圏内に戻りました。価格転嫁が進み好転したと推測されます。

	前年同期	前 期	今 期	見通し
業況D・I	△4.3	8.7	13.1	0.0
売上高D・I	30.4	17.4	17.4	-
収益D・I	△13.0	△13.1	4.4	-

来期の見通しについて

その他製造業で改善、食料品、出版・印刷及び金属製品製造業で下降、他の業種では現状維持を見込み、製造業全体で今期実績から悪化する見通しです。

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント（聞き取りを含む）の一部

- ・受注量は回復。小口受注については断っているケースもある。
- ・仕入に対する価格転嫁はできているが、固定費の増加分を確保するのに今後苦戦する見込み。
- ・設備の入替えを検討している会社は多いが、入替コストが高く、思うようにいかない。

経営上の問題点トップ3

	前年同期		今 期	
第1位	原材料高	65.2%	原材料高 人手不足	47.8%
第2位	人手不足 売上の停滞・減少	30.4%	工場・機械の狭小・老朽化	26.1%
第3位	工場・機械の狭小・老朽化	26.1%	売上の停滞・減少	21.7%

(複数回答)

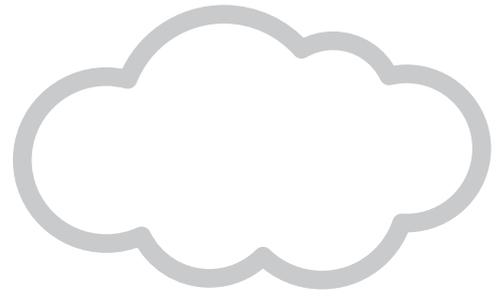
当面の重点経営施策トップ3

	前年同期		今 期	
第1位	経費を節減する	47.8%	販路を広げる	56.5%
第2位	販路を広げる 人材を確保する	39.1%	人材を確保する	39.1%
第3位	情報力を強化する	21.7%	経費を節減する	34.8%

(複数回答)



卸売業



概況

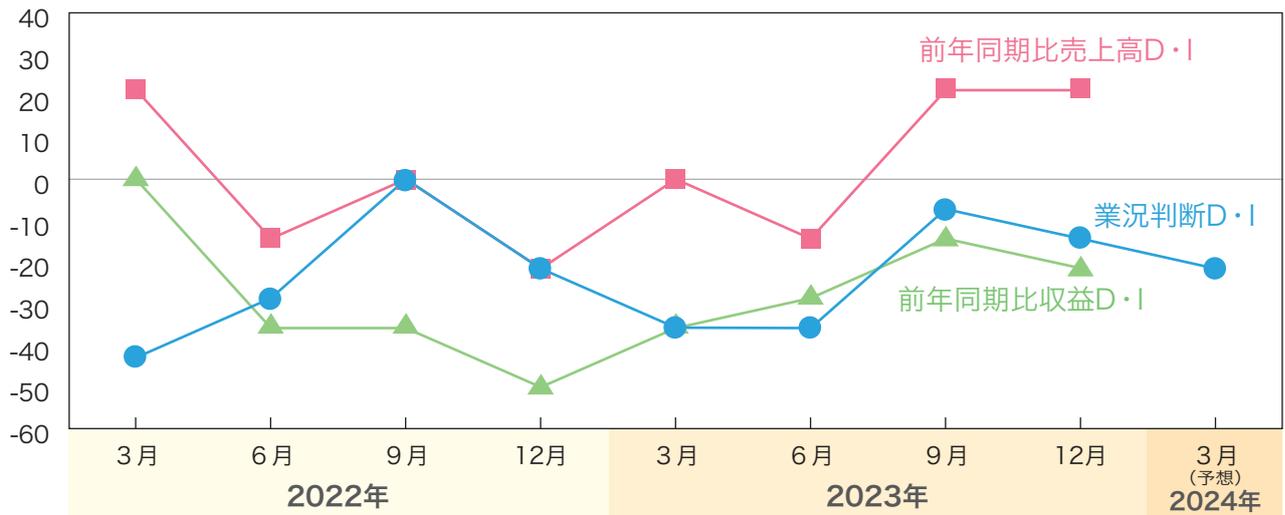
今期の業況判断指数（D・I値）は、△14.3と前
 期比（7月～9月）7.1ポイント下降し、冴えない
 業況となりました。建築材料卸売業で改善しまし
 たが、農畜産物・水産物及び食料・飲料卸売業で下
 降し、全体の押下げ要因となりました。売上D・I値
 は前期並み水準が続きましたが、収益D・I値は△
 21.4となり、7.1ポイント下降しました。燃料・原
 材料・及び食品価格上昇の中で、採算性向上への取
 組が重要課題となりつつあります。

	前年同期	前 期	今 期	見通し
業況D・I	△21.5	△7.2	△14.3	△21.5
売上高D・I	△21.5	21.4	21.4	—
収益D・I	△50.0	△14.3	△21.4	—

来期の見通しについて

建築材料卸売業で下降を見込んでいるため、全体
 において、低調な業況が継続される見通しです。

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント（聞き取りを含む）の一部

- ・資金繰りの安定を図るため、長期運転資金を導入した。
- ・仕入価格の上昇分を販売価格に転嫁でき、資金繰りに余裕あり。
- ・天候による影響が大きい年度であった。

経営上の問題点トップ3

	前年同期	今 期
第1位	仕入先からの値上げ要請 50.0%	人件費の増加 42.9%
第2位	売上の停滞・減少 42.9%	取引先の減少 天候の不順 人手不足 28.6%
第3位	人手不足 35.7%	売上の停滞・減少 利幅の縮小 21.4%

(複数回答)

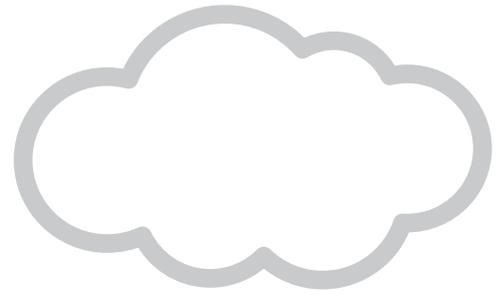
当面の重点経営施策トップ3

	前年同期	今 期
第1位	販路を広げる 人材を確保する 50.0%	経費を節減する 92.9%
第2位	経費を節減する 42.9%	販路を広げる 64.3%
第3位	情報力を強化する 28.6%	人材を確保する 42.9%

(複数回答)



小売業



概況

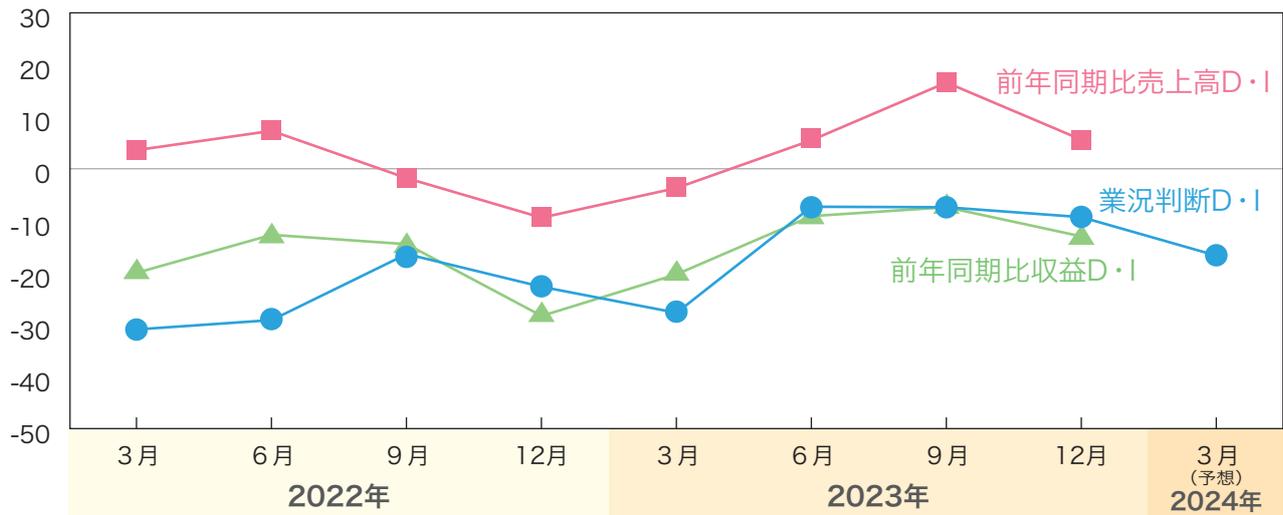
今期の業況判断指数（D・I値）は、△9.3と前期比（7月～9月）1.9ポイント下降し、冴えない業況でした。その他小売業、自動車・自転車小売業でやや下降し、それ以外の業種では横這いとなり、小幅な悪化に止まりました。売上D・I値は5.6と前期比11ポイント悪化となり、販売価格への転嫁は、業種ごとに改善・悪化が混在しているとみられます。収益D・I値も前期比5.6ポイント下降し、コスト負担が続き採算性は赤字基調が継続しました。

	前年同期	前 期	今 期	見通し
業況D・I	△22.7	△7.4	△9.3	△16.7
売上高D・I	△9.4	16.6	5.6	—
収益D・I	△28.3	△7.4	△13.0	—

来期の見通しについて

自動車・自転車小売業でやや改善が見込まれ、飲食料品、燃料及びその他小売業で下降が見込まれ、小売業全体では今期実績より悪化する見通しです。

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント（聞き取りを含む）の一部

- ・ エアコンの設置やリフォーム工事の建設関連事業が好調に推移し、増収増益決算となった。
- ・ 適正在庫管理による利幅確保が最重要と考えている。
- ・ 材料価格の上昇に対し、販売価格は据え置き。年末年始の需要動向に注視する。

経営上の問題点トップ3

	前年同期	今 期
第1位	売上の停滞・減少 商圈人口の減少 50.9%	商圈人口の減少 48.1%
第2位	人手不足 利幅の縮小 22.6%	売上の停滞・減少 33.3%
第3位	仕入先からの値上げ要請 17.0%	人手不足 22.2%

(複数回答)

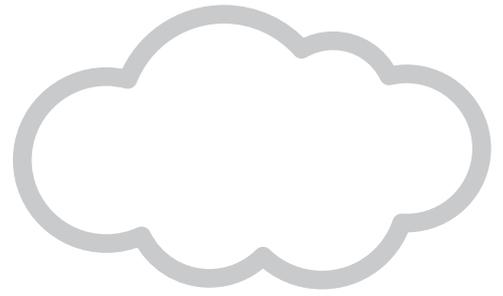
当面の重点経営施策トップ3

	前年同期	今 期
第1位	経費を節減する 58.5%	経費を節減する 50.0%
第2位	人材を確保する 26.4%	人材を確保する 25.9%
第3位	売れ筋商品を取扱う 22.6%	売れ筋商品を取扱う 24.1%

(複数回答)



サービス業



概況

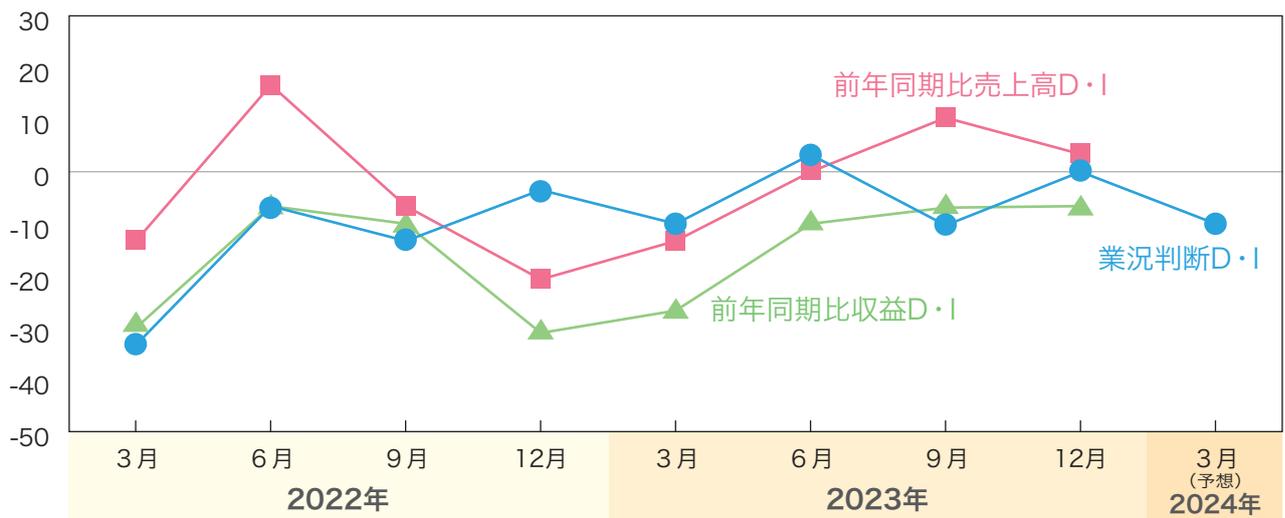
今期の業況判断指数(D・I値)は、0.0と前期(7月～9月)に比べ10.3ポイント改善しました。業種別ではその他サービス業、洗濯・理容業でやや下降しましたが、自動車整備業で改善し、全体では2期振りにマイナス圏内を脱しました。売上D・I値は前期比7.0ポイント悪化しましたが、専門サービス業の上昇により、プラス圏内を維持しました。収益D・I値は前期比0.3ポイント下降しましたが、大きな変化はありませんでした。

	前年同期	前 期	今 期	見通し
業況D・I	△3.5	△10.3	0.0	△10.0
売上高D・I	△20.7	10.4	3.4	—
収益D・I	△31.0	△6.9	△6.6	—

来期の見通しについて

自動車整備業、その他サービス業で下降を見込み、他の業種は現状維持を予測し、全体では下降する見通しです。

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント(聞き取りを含む)の一部

- ・新聞の需要は年々減少しており、売上は伸び悩んでいる。
- ・車検増加で売上も増加した。現状、人手不足で人材確保が課題である。
- ・同地区・同業者の廃業により、売上が増加傾向にある。

経営上の問題点トップ3

	前年同期	今 期
第1位	人手不足 44.8%	人手不足 売上の停滞・減少 46.7%
第2位	商圏人口の減小 34.5%	材料価格の上昇 43.3%
第3位	材料価格の上昇 31.0%	商圏人口の減小 人件費の増加 23.3%

(複数回答)

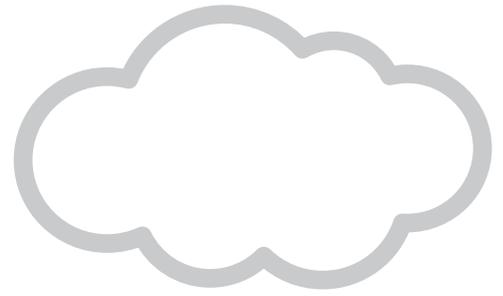
当面の重点経営施策トップ3

	前年同期	今 期
第1位	経費を節減する 55.2%	経費を節減する 53.3%
第2位	販路を広げる 41.4%	販路を広げる 40.0%
第3位	人材を確保する 37.9%	人材を確保する 23.3%

(複数回答)



建設業



概況

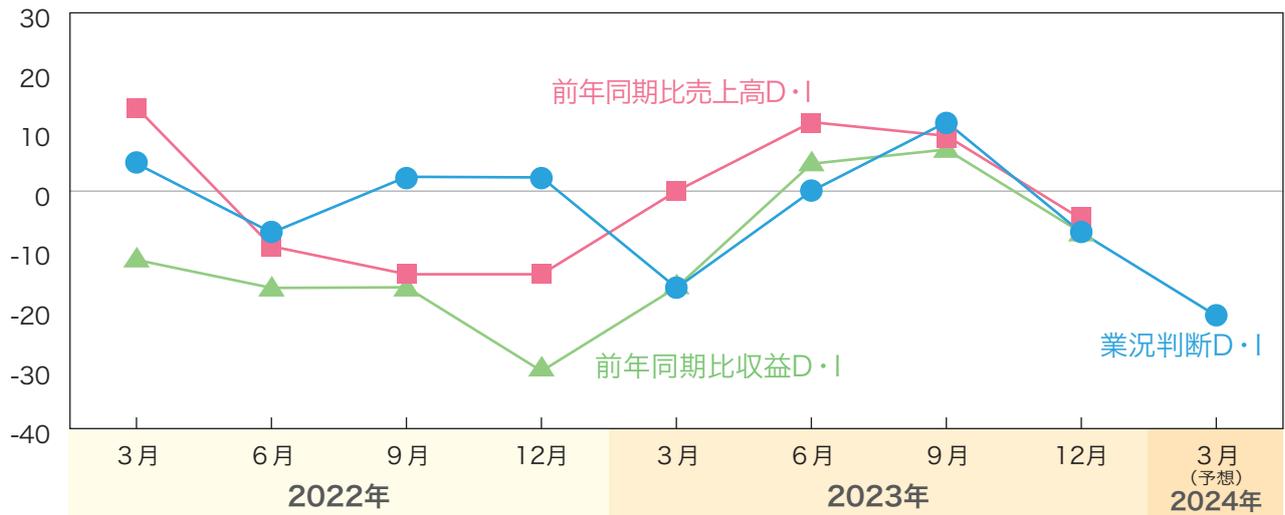
今期の業況判断指数(D・I値)は、△7.0と前期(7月～9月)に比べ18.6ポイント悪化し、令和4年12月以来、4期振りにマイナス圏内に転じました。業種別D・I値の推移ポイントは、総合工事4→△15、職別工事40→25、設備工事0→△12となっております。売上高D・I値は前期比14.0ポイント下降し、官・民需の低迷が一因と思われます。収益D・I値は前期比で14.0ポイント悪化し、仕入及び人材コストの上昇による影響と推察されます。

	前年同期	前 期	今 期	見通し
業況D・I	2.3	11.6	△7.0	△21.0
売上高D・I	△14.0	9.3	△4.7	-
収益D・I	△30.3	7.0	△7.0	-

来期の見通しについて

総合工事業及び設備工事業で下降を予想し、職別工事業で現状維持の見込みではありますが、比較的低調な業況の見通しです。

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント(聞き取りを含む)の一部

- ・材料価格は上昇したが、売上原価に転嫁でき、現状は増収増益。
- ・例年より、短期運転資金を増額し、資金繰りに余裕あり。
- ・受注は減少傾向、除排雪の動向により、今期は業績が左右される見通し。

経営上の問題点トップ3

	前年同期	今 期
第1位	材料価格の上昇 67.4%	材料価格の上昇 55.8% 人手不足
第2位	人手不足 58.1%	売上の停滞・減少 23.3%
第3位	売上の停滞・減少 同業者間の競争の激化 23.3%	下請けの確保難 20.9%

(複数回答)

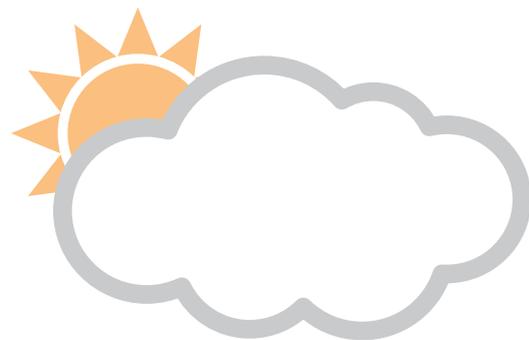
当面の重点経営施策トップ3

	前年同期	今 期
第1位	経費を節減する 人材を確保する 51.2%	人材を確保する 60.5%
第2位	技術力を強化する 41.9%	経費を節減する 46.5%
第3位	販路を広げる 30.2%	技術力を強化する 41.9%

(複数回答)



不動産業



概況

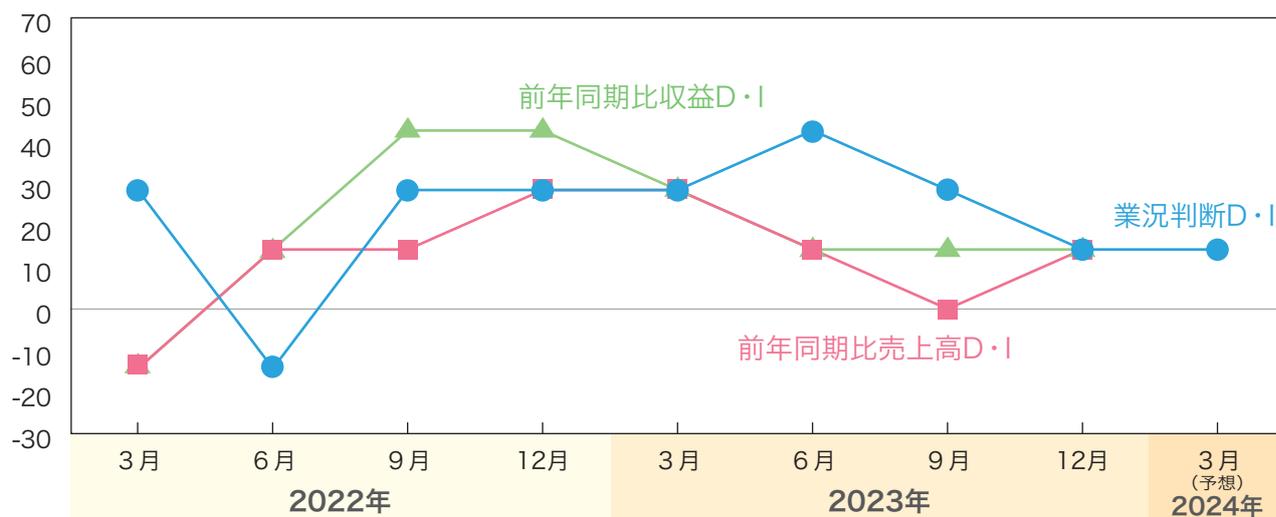
今期の業況判断指数(D・I値)は、14.3と不動産代理業・仲介業で下降し、前期(7月~9月)よりも14.3ポイント悪化となりましたが、6期連続でプラス圏を維持、安定した業況でした。売上高D・I値は、不動産代理業・仲介業の上昇に伴い14.3ポイント改善されました。収益D・I値は特に変動要因なく、前期採算水準を維持しました。

	前年同期	前 期	今 期	見通し
業況D・I	28.6	28.6	14.3	14.3
売上高D・I	28.6	0.0	14.3	-
収益D・I	42.9	14.3	14.3	-

来期の見通しについて

例年は、不動産代理業・仲介業が春の異動期に向けて上昇機運が高まりますが、期待感はやや薄く、全体では現状維持の見通しです。

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント(聞き取りを含む)の一部

- ・令和5年11月に商業施設を新築した。

経営上の問題点トップ3

	前年同期	今 期
第1位	人件費以外の経費の増加 42.9%	人件費以外の経費の増加 57.1%
第2位	商品物件の高騰 商品物件の縮小 人件費の増加 28.6%	商品物件の縮小 売上の停滞・減少 42.9%
第3位	同業者間の競争の激化 売上の停滞・減少	商品物件の高騰 人件費の増加 28.6% 同業者間の競争の激化

(複数回答)

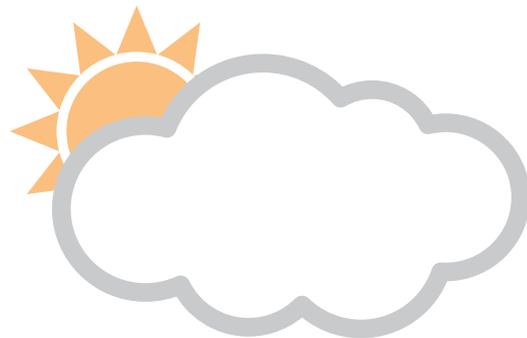
当面の重点経営施策トップ3

	前年同期	今 期
第1位	経費を節減する 57.1%	経費を節減する 100.0%
第2位	販路を広げる 不動産の有効活用を図る 42.9%	宣伝・広告を強化する 57.1%
第3位	情報力を強化する 宣伝・広告を強化する 28.6%	販路を広げる 情報力を強化する 42.9%

(複数回答)



運輸業



概況

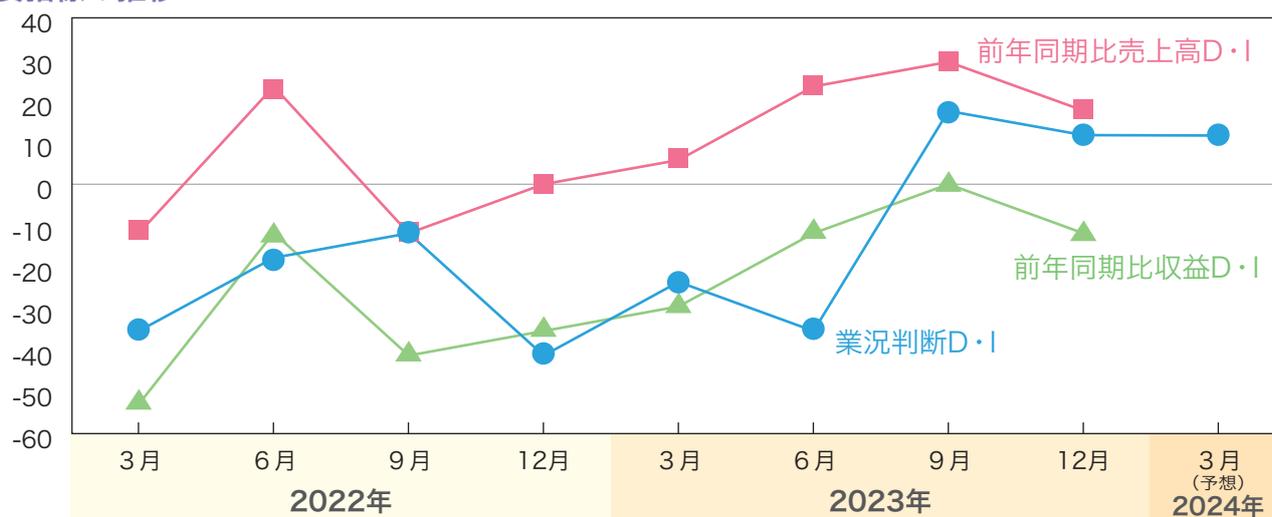
今期の業況判断指数（D・I値）は、11.8と前期（7月～9月）から5.8ポイント下降しました。ハイヤー・タクシー等旅客自動車業及び貨物自動車運輸・通運業でやや悪化しました。売上高D・I値は、旅客・物流でやや停滞した影響を受けて11.7ポイント悪化となりました。収益D・I値では11.8ポイント悪化となり、人材不足・燃料費高騰及び価格転嫁の難しい業界構造によると思われます。

	前年同期	前 期	今 期	見通し
業況D・I	△41.2	17.6	11.8	11.7
売上高D・I	0.0	29.4	17.7	-
収益D・I	△35.3	0.0	△11.8	-

来期の見通しについて

貨物自動車運輸・通運業で小幅な好転を見込み、その他の運輸・通信業で下降を予測しており、全体では横這いの業況見通しです。

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント（聞き取りを含む）の一部

- ・タクシー代値上げで、売上増加。
- ・元請けからの受注減少し、収益性も低下した。
- ・これからの時期は、降雪量により売上が左右されるため、気になる。

経営上の問題点トップ3

	前年同期		今 期	
第1位	燃料価格の上昇	94.1%	燃料価格の上昇	88.2%
第2位	人手不足	70.6%	人手不足	64.7%
第3位	売上の停滞・減少	41.2%	売上の停滞・減少	23.5%

(複数回答)

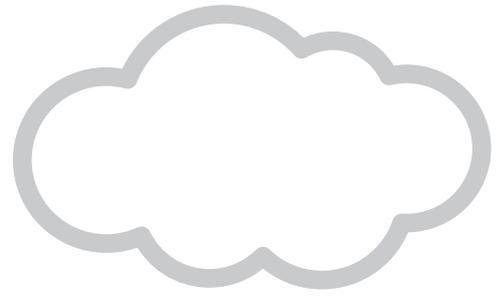
当面の重点経営施策トップ3

	前年同期		今 期	
第1位	経費を節減する	76.5%	経費を節減する	64.7%
第2位	販路を広げる	41.2%	販路を広げる	47.1%
第3位	教育訓練を強化する	23.5%	人材を確保する	35.3%

(複数回答)



農業

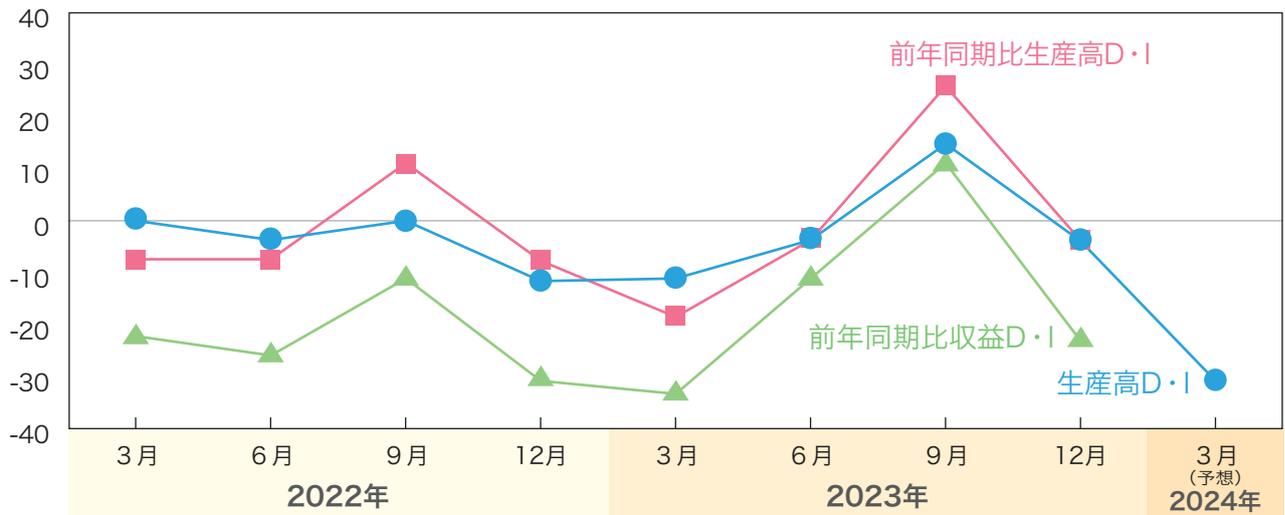


概況

生産高D・I値は、前期比18.7ポイント悪化しました。猛暑の影響を受け、水稻は作況指数「104のやや良」となりましたが、1等米は87.4%と前年比4.4ポイント下降し、大豆はカビ等の発生で品質低下、野菜関連では一時壊滅的な被害を被りました。また、畜産においては乳量低下や死亡に至るケースも発生、和子牛の価格も低下が続くなど厳しい状況でした。収益D・I値は△23.1となり前期比34.2ポイント下降しました。全国の農業所得における統計では7.3%の収入減収が公表され、生産資材等の価格が高騰する一方で、それに伴う価格転嫁が不十分と推測されます。水田利活用問題のある中で、今後は猛暑対策、価格転嫁、経費抑制、販路拡大等の様々な対策が求められております。

	前年同期	前 期	今 期	見通し
生産高D・I	△11.6	14.8	△3.9	△30.8
前年同期比生産高D・I	△7.7	25.9	△3.8	-
収益D・I	△30.8	11.1	△23.1	-

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント (聞き取りを含む) の一部

- ・牛乳、個体の単価が回復傾向にある。
- ・天候不順により、収量・品質とも低下し、今期の業績は厳しい見通しである。
- ・各商談会を通じて、販路を確保する努力を継続している。

経営上の問題点トップ3

	前年同期		今 期	
第1位	経費の増加	65.4%	経費の増加	57.7%
第2位	人手不足	53.8%	人手不足 生産資材等価格の上昇	50.0%
第3位	生産資材等価格の上昇	50.0%	生産者価格の低迷	34.6%

(複数回答)

特別調査

2024年(令和6年)の経営見通し

当金庫が今回実施致しました第150回中小企業景気動向調査と併せて(運輸業と農業を除く)171先について「2024年(令和6年)の経営見通し」をアンケート調査した結果です。

問1. 貴社では、2024年の日本の景気をどのように見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。

- | | | |
|---------|------|---------|
| 1 非常に良い | 4 普通 | 5 やや悪い |
| 2 良い | | 6 悪い |
| 3 やや良い | | 7 非常に悪い |

	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	総計
1 非常に良い	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2 良い	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	0.6%
3 やや良い	8.7%	0.0%	9.3%	6.7%	0.0%	0.0%	5.3%
4 普通	34.8%	42.9%	29.6%	26.7%	48.8%	71.4%	37.4%
5 やや悪い	43.5%	50.0%	40.7%	56.7%	39.5%	14.3%	43.3%
6 悪い	13.0%	7.1%	18.5%	3.3%	4.7%	14.3%	10.5%
7 非常に悪い	0.0%	0.0%	1.9%	6.7%	4.7%	0.0%	2.9%

2024年の景気見通しに対し、全事業先で「良い」(やや良い・非常に良いを含む)と回答した先は5.9%(3.6%)に止まりました。「普通」の回答率が37.4%(16.6%)、「悪い」(やや悪い・非常に悪いを含む)と回答した事業先は全体で56.7%(79.8%)となっております。景気の見通しを対前年比で見ると、「良い」+2.3%、「普通」+20.8%、「悪い」△23.1%となり、前年度に「悪い」と回答した事業先が「普通」の見通しにランクアップされ、その結果、やや回復の予想を見通しております。「悪い」(やや悪い・非常に悪いを含む)とした業種はサービス業66.7%(86.2%)が最も高く、以下小売業61.1%(81.1%)、卸売業57.1%(85.7%)が続いております。

※()は前年度実績

問2. 貴社では、2024年の自社の業況(景気)をどのように見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。

- | | | |
|---------|------|---------|
| 1 非常に良い | 4 普通 | 5 やや悪い |
| 2 良い | | 6 悪い |
| 3 やや良い | | 7 非常に悪い |

	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	総計
1 非常に良い	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2 良い	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	2.3%	14.3%	1.8%
3 やや良い	8.7%	0.0%	9.3%	10.0%	11.6%	14.3%	9.4%
4 普通	39.1%	57.1%	50.0%	53.3%	53.5%	42.9%	50.3%
5 やや悪い	43.5%	28.6%	25.9%	36.7%	20.9%	28.6%	29.2%
6 悪い	8.7%	14.3%	11.1%	0.0%	11.6%	0.0%	8.8%
7 非常に悪い	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%

2024年の自社の業況(景気)見通しは、前問の「日本の景気見通し」とは違い全事業先を見ると「普通」が50.3%(47.9%)と最も多くなりました。全事業先で「良い」(やや良い・非常に良いを含む)と回答した先は11.2%(4.7%)で、新型コロナウイルスの5類移行等による人流・物流の回復に期待する心理を反映した結果と推測されます。また、「悪い」(やや悪い・非常に悪いを含む)38.6%(47.4%)と前年比8.8ポイント改善しております。業種別では、製造業52.2%(60.8%)・卸売業42.9%(57.2%)・小売業38.9%(52.8%)の順に「悪い」と見通しています。

※()は前年度実績

問3. 2024年において貴社の売上額の伸び率は、2023年に比べておおよそどのくらいになると見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。

- | | | |
|-------------|---------|-------------|
| 1 30%以上の増加 | 5 変わらない | 6 10%未満の減少 |
| 2 20~29%の増加 | | 7 10~19%の減少 |
| 3 10~19%の増加 | | 8 20~29%の減少 |
| 4 10%未満の増加 | | 9 30%以上の減少 |

	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	総計
1 30%以上の増加	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2 20~29%の増加	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	14.3%	1.2%
3 10~19%の増加	13.0%	7.1%	7.4%	6.7%	2.3%	14.3%	7.0%
4 10%未満の増加	17.4%	28.6%	16.7%	16.7%	23.3%	0.0%	18.7%
5 変わらない	39.1%	42.9%	48.1%	53.3%	46.5%	42.9%	46.8%
6 10%未満の減少	30.4%	7.1%	24.1%	20.0%	16.3%	28.6%	21.1%
7 10~19%の減少	0.0%	14.3%	1.9%	0.0%	7.0%	0.0%	3.5%
8 20~29%の減少	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	2.3%	0.0%	1.2%
9 30%以上の減少	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.6%

2024年における自社の売上額の伸び率は全体では「変わらない」と回答した先が46.8%(46.7%)と、最も多くなりました。全事業先で「増加」(10%未満~30%以上を含む)と回答した先は26.9%(16.0%)で、業種別では卸売業35.7%(0.0%)・製造業30.4%(17.3%)・不動産業28.6%(14.3%)の順となっております。また、全事業先で「減少」(10%未満~30%以上を含む)と回答した先は26.4%(37.3%)となりました。業種別では、製造業30.4%(30.4%)・不動産業28.6%(14.3%)・小売業27.9%(43.4%)の順で減少を見通しています。

※()は前年度実績

問4. 貴社では、自社の業況が向上転換点をいつ頃になると見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1 すでに上向いている。 | 5 3年後 |
| 2 6か月以内 | 6 3年超 |
| 3 1年後 | 7 業況改善の見通しは立たない |
| 4 2年後 | |

	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	総計
1 すでに上向いている。	26.1%	50.0%	16.7%	16.7%	30.2%	28.6%	24.6%
2 6か月以内	13.0%	7.1%	1.9%	10.0%	7.0%	14.3%	7.0%
3 1年後	13.0%	7.1%	18.5%	3.3%	14.0%	14.3%	12.9%
4 2年後	8.7%	7.1%	14.8%	10.0%	4.7%	0.0%	9.4%
5 3年後	4.3%	0.0%	0.0%	23.3%	18.6%	28.6%	10.5%
6 3年超	8.7%	0.0%	13.0%	6.7%	0.0%	0.0%	6.4%
7 業況改善の見通しは立たない	26.1%	28.6%	35.2%	30.0%	25.6%	14.3%	29.2%

自社の業況が向上転換点では、全業種を通じ「業況改善の見通しは立たない」が29.2% (28.4%) で最も多くなりました。業種別では、小売業・サービス業・卸売業の順となり、それぞれ35.2% (26.4%)、30.0% (41.4%)、28.6% (35.7%) となっております。1年後以内 (すでに上向いている・6か月以内を含む) を転換点とする回答は44.5% (29.6%) で、業種別では卸売業64.2% (21.4%) が最も高く、以下不動産業57.2% (42.9%)、建設業51.2% (39.6%) と続いております。

※ () は前年度実績

問5. 近年、販売価格や仕入価格に上昇の傾向がみられますが、2024年を展望したとき、貴社では価格面の動向をどのように見通していますか。販売価格については1～5から、仕入価格については6～0から、それぞれもっとも当てはまるものを1つずつ選んでお答えください。

販売価格

- 1 大幅な上昇 (10%以上)
- 2 緩やかな上昇 (10%未満)
- 3 変わらない (一進一退など)
- 4 下落
- 5 わからない (自社には関係ないなど)

仕入価格

- 6 大幅な上昇 (10%以上)
- 7 緩やかな上昇 (10%未満)
- 8 変わらない (一進一退など)
- 9 下落
- 0 わからない (自社には関係ないなど)

	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	総計	
販売価格	1 大幅な上昇 (10%以上)	4.3%	7.1%	7.4%	0.0%	2.3%	0.0%	4.1%
	2 緩やかな上昇 (10%未満)	56.5%	64.3%	55.6%	53.3%	53.5%	28.6%	54.4%
	3 変わらない (一進一退など)	39.1%	14.3%	33.3%	40.0%	41.9%	71.4%	37.4%
	4 下落	0.0%	7.1%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%
	5 わからない (自社には関係ないなど)	0.0%	7.1%	1.9%	6.7%	2.3%	0.0%	2.9%
仕入価格	6 大幅な上昇 (10%以上)	8.7%	0.0%	13.0%	10.0%	11.6%	0.0%	9.9%
	7 緩やかな上昇 (10%未満)	73.9%	64.3%	64.8%	60.0%	67.4%	14.3%	63.7%
	8 変わらない (一進一退など)	17.4%	28.6%	18.5%	26.7%	18.6%	85.7%	23.4%
	9 下落	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
	0 わからない (自社には関係ないなど)	0.0%	7.1%	1.9%	3.3%	2.3%	0.0%	2.3%

(複数回答)

2024年の販売価格の見通しについては、「緩やかな上昇 (10%未満)」と回答した事業先が54.4%と最も高く、以下「変わらない (一進一退)」37.4%、「大幅な上昇 (10%以上)」4.1%と続いております。

仕入価格の見通しは、「緩やかな上昇 (10%未満)」と回答した事業先が63.7%と最も高く、以下「変わらない (一進一退)」23.4%、「大幅な上昇 (10%以上)」9.9%と続き、販売・仕入価格ともに温度差はあるもの見通しは一致しております。

不動産業では販売・仕入価格ともに「変わらない (一進一退)」が突出しておりますが、他の業種は半数以上が「緩やかな上昇 (10%未満)」と見通しております。

主要経済指標

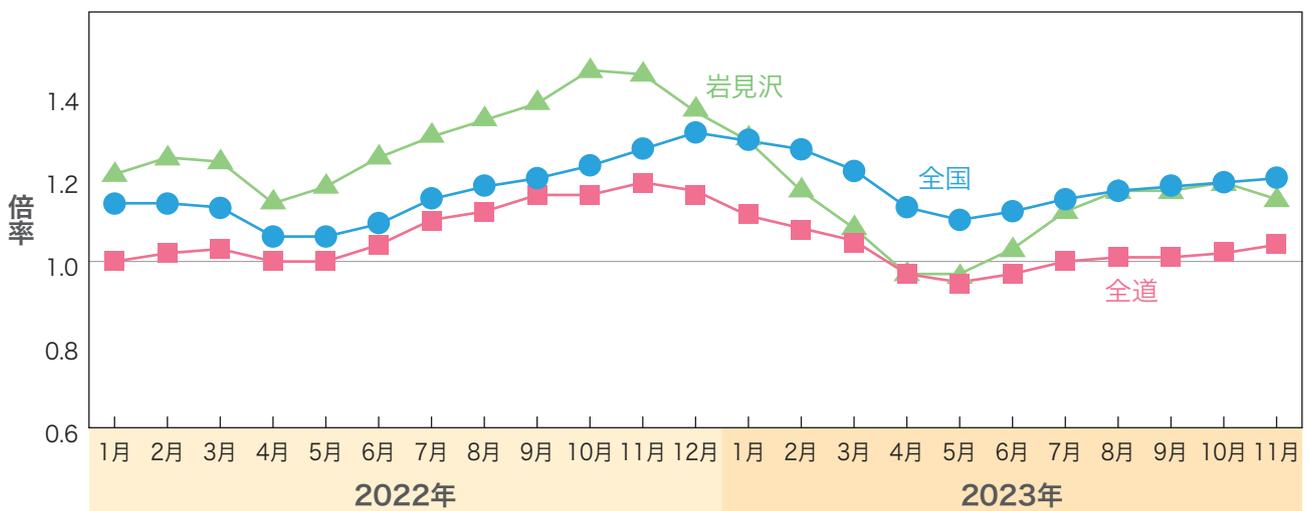
1. 空知管内・江別の人口動向

(人)

	2022年	2023年										
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
岩見沢市	76,760	76,618	76,472	76,168	76,087	76,002	75,982	75,949	75,892	75,831	75,710	75,626
美唄市	19,501	19,485	19,431	19,333	19,278	19,242	19,197	19,175	19,143	19,099	19,079	19,038
三笠市	7,722	7,708	7,672	7,626	7,614	7,600	7,588	7,552	7,528	7,510	7,496	7,476
栗山町	11,109	11,084	11,063	11,016	11,010	10,994	10,985	10,973	10,976	10,950	10,938	10,922
南幌町	7,545	7,553	7,577	7,610	7,648	7,665	7,680	7,691	7,719	7,730	7,747	7,753
由仁町	4,784	4,766	4,758	4,738	4,736	4,723	4,717	4,711	4,712	4,688	4,676	4,667
長沼町	10,161	10,144	10,131	10,099	10,100	10,099	10,097	10,105	10,108	10,101	10,075	10,083
江別市	119,174	119,119	119,075	118,775	118,871	118,824	118,785	118,764	118,771	118,778	118,798	118,750

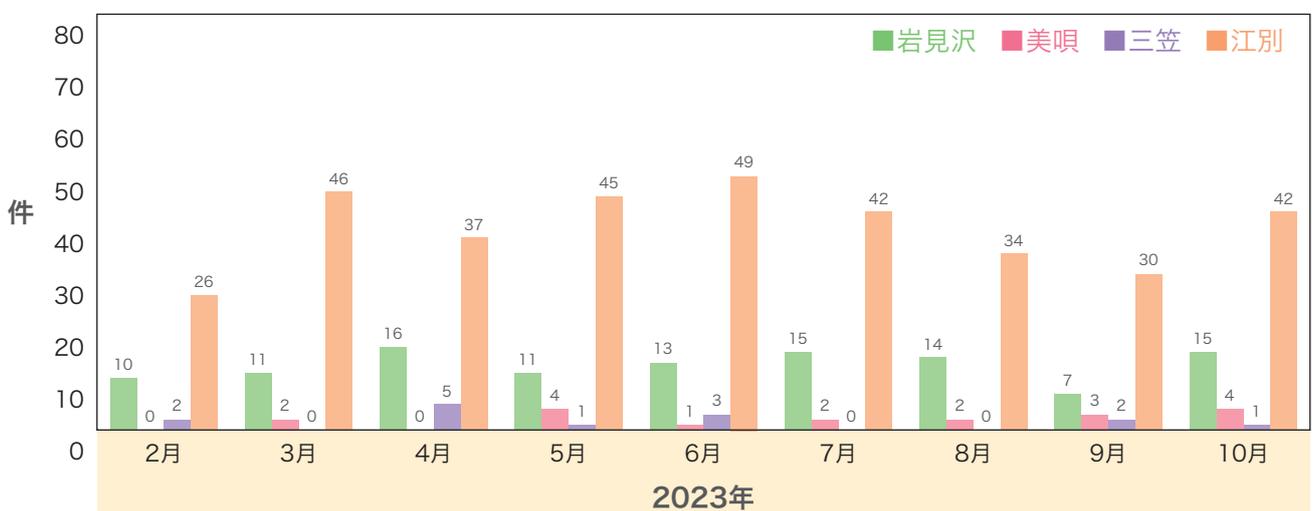
(資料：空知総合振興局)

2. 岩見沢管内の有効求人倍率



(資料：北海道労働局)

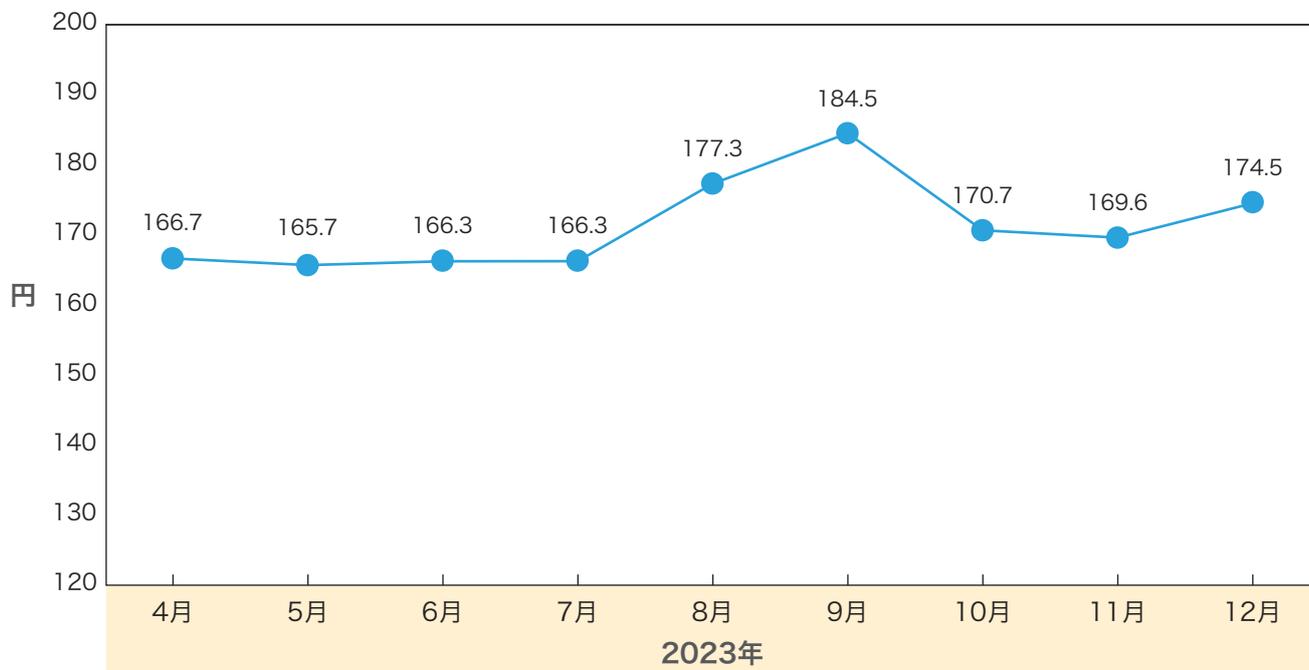
3. 建築確認申請数(4号) ※4号…木造2階建て以下の建築物



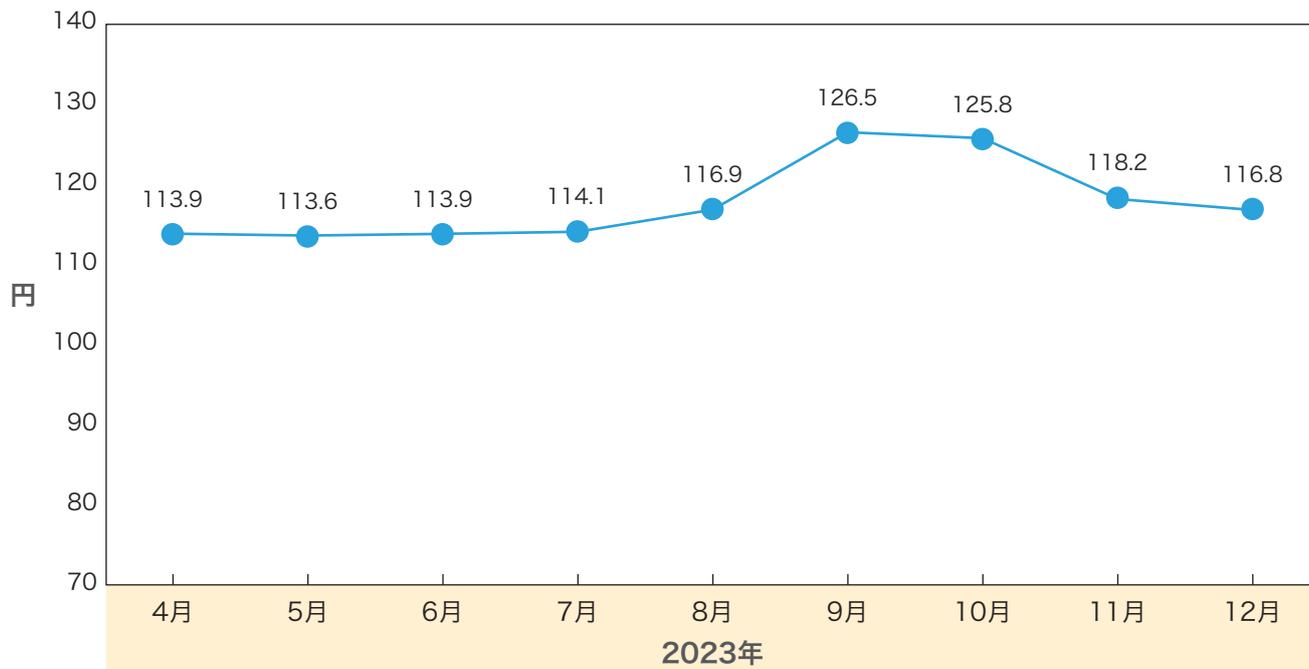
4. 管内のガソリン価格・灯油価格

(岩見沢市・美瑛市・三笠市・江別市・栗山町の平均を算出したもの)

① ガソリン



② 灯油



(資料：北海道消費者協会)

ビジネスマッチングコーナー

このコーナーでは、空知信用金庫のお取引先企業様をご紹介します。皆様の販路拡大やビジネスの連携をサポートする「誌上ビジネスマッチング」の場として、お役立てください。お問い合わせは、直接掲載企業もしくは、当金庫 地域支援部までご連絡ください。

(株)ジューヴル

取引店：本店

2017年に創業した、障がい福祉サービスを基盤とした菓子製造業、飲食店を営んでいます。

菓子店「patisserie soraka」は、地元岩見沢産の米粉を使用したグルテンフリー製法のスイーツや菓子を主力商品として製造販売する他、特産品である「キタノカオリ小麦」を使用したパンや焼き菓子も製造しています。

地域の皆様に、様々なシーンでご活用いただけるような商品作りに努めています。

ご家庭でのおやつから、企業向けの贈答品やお手土産もご用意していますので、商品内容などお気軽にお問い合わせください。

また、店内カフェスペースもゆったりとした空間にしています。お友達とのランチやミーティングなどでもご利用お待ちしております。



〒068-0005 岩見沢市5条東8丁目1-91 ヤマシチ5.8スクエア1F
担当者：池添、岡村 様
Tel 0126-35-5203 Fax 0126-35-5204
Hp <https://www.jouvre-inc.com>
<https://www.soraka.shop>
E-mail orders@soraka.shop



空知信用金庫の社会的取組

空知信用金庫では、地域のお客様を直接サポートする機能強化を図るため、平成29年4月、地域支援室を立ち上げ、令和3年3月より地域支援部となりました。

地域支援部では、以下のような事業や取組みを行っております。

岩見沢市立第一小学校出前授業 (令和5年12月7日)

当金庫では地域貢献の一環として、各種団体向けに金融出前授業を実施しております。今回は、岩見沢市立第一小学校の4学年を対象として、「計画的なお金の使い方」をテーマにすごろくゲームをしながら限られたお金を使い、買い物をしながら金銭感覚を学ぶ「おこづかいゲーム」やお金や信金に関する「クイズ大会」を行い、生徒達は楽しみながら授業に取り組んでいました。



そらちしんきん

住宅ローン 特別金利

お借入時年齢が50歳未満の方対象

充実した保障が
すべて金利上乘せ **なし**

※保険会社の判断により加入できない場合があります。(保険料は当金庫が負担)

金利は **令和5年6月1日現在**

のものととなります。
※市場金利の動向により、将来金利を見直すことがございますので、
適用金利については窓口にお問い合わせください。

変動金利型 新規受付利率

0.90%

お借り入れ後の利率は当金庫の定める住宅ローンプライムレートの変更に伴い、
その変動幅に応じて変更されます。
利率の変更は毎年10月に行い、新利率は翌々月からの適用となります。

固定金利期間選択型 新規受付利率

固定金利特約期間 **10年**

1.05%

固定金利期間選択型については固定金利期間終了後は、
ご返済まで店頭基準金利から年1.50%優遇いたします。

スマホで
簡単申込み **WEBで住宅ローン**

事前審査お申込みが **2ステップ** で簡単に!!

ステップ1 空知信用金庫のホームページにアクセス

空知信用金庫で検索

スマホの方はこちらから

事前審査お申込みは **365日・24時間対応**

ステップ2 サイト内の住宅ローン受付に必要事項を入力

当金庫ホームページ内の住宅ローンWEB受付のお申込み欄に必要事項をご入力していただき、事前審査お申込みを完了!!
事前審査結果は後日お知らせいたします。
※しんきん保証基金保証付住宅ローンのみ事前審査後の本申込みは営業店にて受付いたします

◆◆◆◆ 特別金利を適用いただける方 ◆◆◆◆

①～⑩のうち、4項目以上のお取引が必要となります。

- 給与振込または年金受取(2項目分とします)
- 公共料金等の自動振替(公共料金・クレジット・保険料・税金等のうち2つ以上)
- カードローン
- しんきんカード(公共料金支払セットの場合は2項目分とします)
- 通帳レス口座
(※①～⑤は、すべて家族取引を含みます。)
- LINEおとだち登録
- 大学生以下のお子様がお3名以上もしくはひとり親家庭の方
- 当金庫営業店舗所在市町(※)以外の地域から移住される方
- 勤務先が「健康企業宣言」もしくは全国健康保険協会から「健康事業所宣言」の認定を受けている企業の方
- 当金庫と提携する事業者からの紹介、または提携企業にお勤めの方
- 認定低炭素住宅・長期優良住宅の建設または購入の場合
※岩見沢市、美瑛市、三笠市、栗山町、由仁町、長沼町、南幌町、札幌市、江別市

「万が一への備え」に、「けがや病気への備え」を加えて、安心をお届けします。

- リビング・ニーズ特約付団体信用生命保険 (一般 団信)
- 3大疾病保障特約付リビング・ニーズ特約付団体信用生命保険 (3大疾病 団信)
- 団体信用就業不能保障保険3大疾病保障特約付リビング・ニーズ特約付団体信用生命保険 (就業不能・3大疾病 団信)

死亡	死亡または所定の高度障害状態に該当したら	住宅ローン残高が 0円	一般 団信	地	✓
	余命6ヶ月以内と判断されたら	住宅ローン残高が 0円	3大疾病 団信	銀	✓
3大疾病	がんと診断確定されたら	住宅ローン残高が 0円	3大疾病 団信	の	✓
	脳卒中・急性心筋こうそくで ①所定の手術を受けたら、または②所定の状態が60日以上継続したら	住宅ローン残高が 0円	就業不能・3大疾病 団信	9	✓
その他のケガや病気	高血圧・糖尿病・慢性肺炎・肝硬変・慢性腎不全・ウイルス肝炎の6疾病を含む ほぼすべてのケガや病気です。所定の就業不能状態が3ヶ月を超えて継続したら 以後の継続している期間においては	月々のローン返済が 0円	就業不能・3大疾病 団信	大	✓
	さらに 所定の就業不能状態が12ヶ月を超えて継続したら	住宅ローン残高が 0円	就業不能・3大疾病 団信	病	✓
				団	✓
				信	✓

詳しくは店頭または得意先係までお問い合わせください。

LINEでそらちしんきんと友だちになろう!

様々な情報をLINEでお届け!



